

施策番号 1-1-2	施策名 公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展	基本目標	誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちづくり		
		政策名	生涯を通じて安心して暮らせる保健医療環境づくり		
主管課 施策関係課	公立芽室病院	課長名	大野 邦彦	内線	531

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
地域における一定の急性期及び慢性期患者等に対応できる1.5次の医療提供の継続に向け、公立芽室病院の診療体制を維持し、その経営基盤の強化をすすめます。		公立芽室病院	公立芽室病院の現在の診療体制の維持と経営基盤の強化					地域医療が継続され、安心して暮らせる	
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
① 診療科数	病院決算状況	科	11	11	11	11	11		
② 常勤医師数	病院決算状況	人	13	14	15	14	16		
③ 公立芽室病院の医療体制に対して満足している住民の割合	住民意識調査	%	42.6	36.7	42.5	50.0	55.0		
成果指標設定の考え方	①診療科数 現在の科を維持する。 ②常勤医師数 内科6、外科3、整形外科2、小児科2、産婦人科1、眼科1、歯科1 ③医療体制に対する満足度 調査対象者の過半数が満足する体制を目指す								

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	2,419,846	2,190,772
人工数(業務量)	6.7304	6.1543

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	診療科数は前年度と同数、常勤医師数は年度初めに前年度を上回るも年度途中で退職があった。全体の診療内容に大きな変化はなく、一定の水準を維持することができた。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	新臨床研修制度の影響で、地域医療に携わる医師不足が慢性化している状況の中で、常勤医師の確保は年々困難になってきている。 今後は、プライマリケア認定医の養成や地域包括医療に関する取組みを進めることで、若手・中堅医師の確保を目指す。
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	病院職員任免事務 病院運営委員会開催事務 医療相談室運営事業 医療機器購入事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	医師確保の成果については、単年度におけるものだけではなく、長年にわたった努力が基盤となるものであり、短期間の成果を求めるのではなく、長期的な視野と展望を持ちながら今後も努力していく必要がある。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師確保、看護師確保については、大変厳しい状況が続いており、今後も同様の状況が続くものと思われる。 ・ とりわけ、産婦人科・小児科に関しては、集約化が進んでいるため、医師偏在が顕著となっている。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常勤医師の確保や診療体制の充実を望む意見等が寄せられている。 ・ 公立病院の状況を多くの人にわかってもらおうと「公立芽室病院をみんなで支える会」が平成23年に設立された。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ●課題① 医師招へい・定着化対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学医局に属さない医師が増えてきたことで、大学からの派遣医師の割合が減り、医師の確保・定着化が年々困難になってきている。 ・ 医育大学のみならず、関係機関からの情報収集や求人広告により、医師招へい対策を強化していく必要がある。 ●課題② 経営(収支)安定化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数の減や診療報酬改定等の影響で年々資金収支が悪化している。病棟編成を含め、診療体制について検証が必要となる。 ●課題③ 地域包括医療ケアの実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会の到来で、訪問診療や看取りなど、在宅医療のニーズが高まっている。訪問診療などの医療サービスを今まで以上に積極的に進めていく必要がある。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	常勤医指数も一定水準を維持しており、地域包括ケアも進めていることから、施策として前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども、出産関係など強みを生かし、機能的な運営を行う。 ●在宅診療等のニーズの高まりを把握し、地域包括医療ケアを推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した 					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	医師を確保しており、施策として前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問診療や訪問看護を進めてもらいたい。 ●訪問診療などの在宅医療について、進める姿勢は評価できるが、現状で出来るのかが疑問。体制を変えていくことも考えなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した 					